

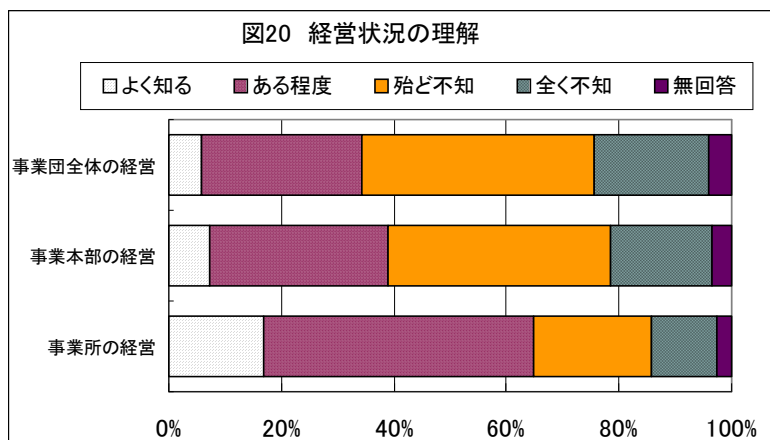
値が高い（30代男性73.3%、50代男性69.4%）（表32）。

## Ⅶ. 労働者協同組合（事業団）の事業経営に関する意識

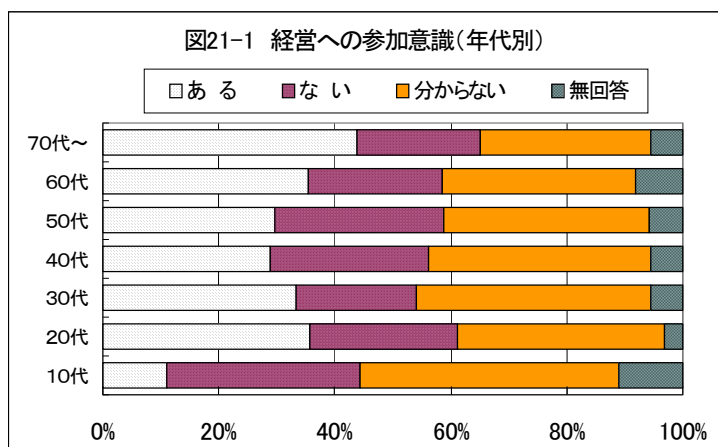
### 1. 経営状況を知っているか

経営状況を知っている割合が多い順に並べると（「よく知っている」「ある程度」の合計）、販売・売店84.6%、物流75.3%、廃棄物関連75.0%、福祉・介護74.5%、清掃・ビルメン65.8%、公園・緑化63.3%、給食56.7%、食品加工18.4%となる。年代別で多かったのは、

男女別では30代男性が79.3%、40代女性が70.6%であった（表35）。前回の調査と比べると、事業所においては経営を把握している人が全体で64.7%と、前回より7.7ポイントも増えた。事業本部の経営状況は38.9%（前回比2.2ポイント↑）、事業団全体の経営状況は33.8%（同0.5ポイント↑）で前回より微増した（表35）。



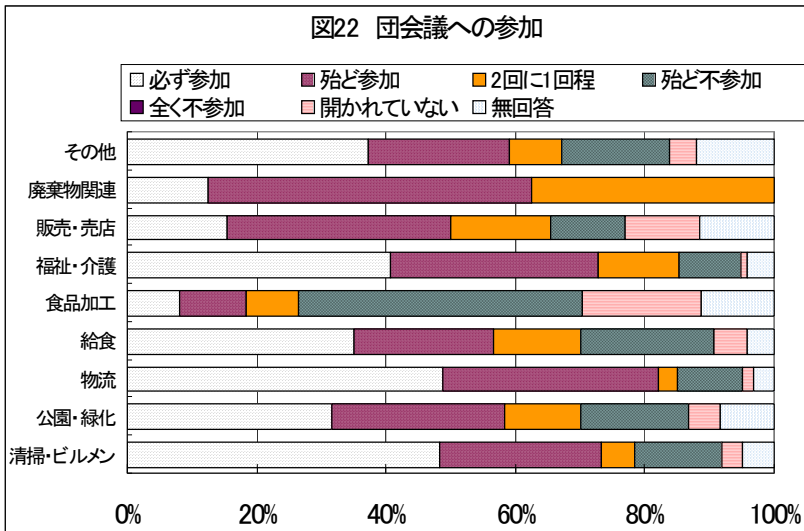
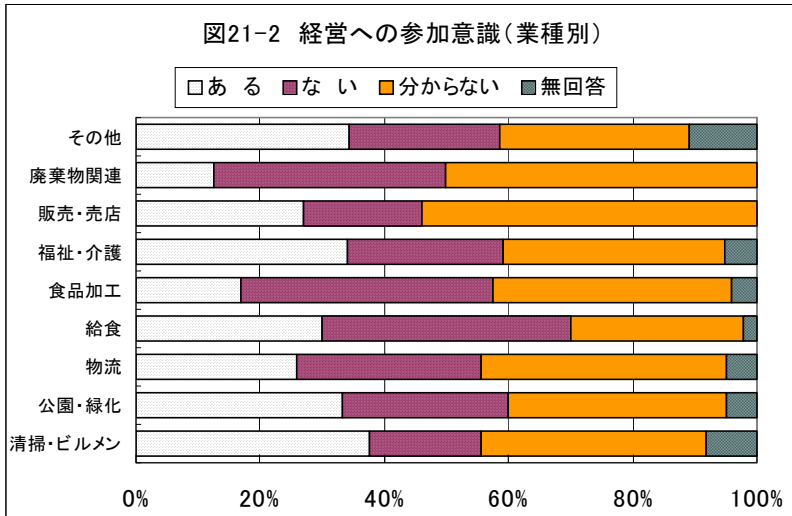
### 2. 組合経営への参加意識



組合経営の参加意識については、「分からない」がどの職種も約3割~5割と多いことを考えると、経営することを漠然としか理解できず、どのようにかかわるべきか整理できていないのではないかと考えられる（表36-1）。参加意識が「ある」と答えた人の割合が多い順に並べると、清掃・ビルメンが37.6%（前回比3.3ポイント↑）、福祉・介護が34.1%（同1.3ポイント↓）公園・緑化が33.3%（前回比4.0ポイント↓）、給食が29.9%（前回比なし）、販売・売店が26.9%（前回比なし）、物流が25.9%（同4.2ポイント↑）、食品加工が16.8%（前回比なし）、廃棄物関連が12.5%（前回比なし）であった（表36-1）。

（表36-1）

### 3. 「協同労働」の機関会議－団会議への参加意識

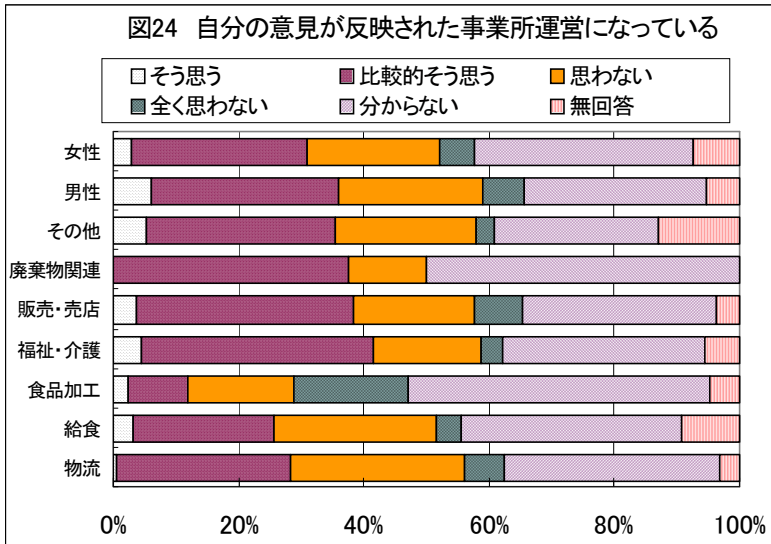
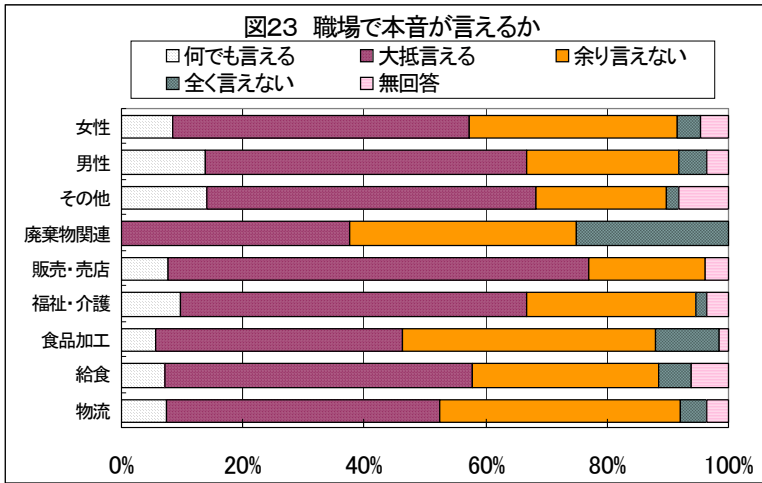


団会議の参加率は、「必ず参加」「ほとんど参加」の合計で高い順に並べると、物流が82.1%（前回比14.4ポイント↑）、清掃・ビルメンが73.2%（同7.2ポイント↑）、福祉・介護が72.9%（同28.6ポイント↑）、廃棄物関連が62.5%（前回比なし）、公園・緑化が58.4%（同7.7ポイント↑）、給食が56.7%（前回比なし）、販売・売店が50.0%（前回比なし）、食品加工が18.4%（前回比なし）であった。物流は組合員の参加意識が「ある」と答えた人は25.9%で、その割合は他部門との平均より低いにもかかわらず、団会議の参加率は高かった（表36-2）。参加意識は職種によって高低があるけれども、会議の参加率はどの職種でも前回より大幅にあがっている。

次に団会議への参加の主体性であるが、全体で見ると「毎回発言」が15.8%（前回比5.8ポイント↑）、「ときどき発言」が23.1%（同2.1ポイント↑）、「質問程度」が20.3%（同2.4ポイント↓）、「ほとんど発言せず」が16.7%（同2.4ポイント↓）、「全く発言せず」が（同4.7ポイント↓）となっている。発言率は前回より増えていることがわかる。

職種別で「ほとんど発言せず」「全く発言せず」を合計した数値で比べると、前回同様、福祉・介護が一番少なく19.2%で、前回より5.5ポイント減っている。全体では発言しない人の割合は7.1ポイント減少して25.9%となっている（表37）。

#### 4. 職場の民主的風土・雰囲気認識



職場で本音が言えるかについては、「なんでも言える」「たいてい言える」を合計した数値を高い順に並べると、販売・売店が76.9%（前回比なし）、福祉・介護が66.8%（前回比0.7ポイント↑）、給食が57.7%（前回比なし）、公園・緑化が56.6%（前回比3.3ポイント↑）、清掃・ビルメンが54.1%（同5.6ポイント↓）、物流が52.5%（同0.2ポイント↓）、食品加工が46.4%（前回比なし）、廃棄物が37.5%（前回比なし）であった（表38-1）。

男性の10代・20代・30代からは、発言はしているけど言いたいことが言えていない現状がわかる（表37・表38）。男性の60代・70代は団会議で発言している回数は多くはないが、「なんでも言える・たいてい言える」人が7割強になる。女性は、20～40代が「なんでも言える・

たいてい言える」で6割を越すが、発言率は40代以降のほうが高いので、男女とも結果をみると、たくさん発言しているからといって「なんでも言える」ということではなさそうである。

納得のいく話し合いについては、食品加工の46.6%を除いては、どの領域も6割以上が「かなり話し合う・だいたい話し合う」と答えている（表38-2）。特に福祉・介護の79.7%（前回比3.2ポイント↑）、廃棄物関連の87.5%（前回比なし）が高かった。表38-1の「なんでも言える・たいてい言える」では割合が福祉・介護より販売・売店で10ポイント高かったが、「かなり話し合う・だいたい話し合う」は福祉・介護のほうが約10ポイント高い結果となった。

自分の意見が反映された事業所運営になっているかについては、「そう思う・比較的そう思

う」で高かったのが、福祉・介護の**41.5%**（前回比**5.6**ポイント↓）、販売・売店の**37.5%**（前回比なし）、廃棄物関連の**37.5%**（前回比なし）であった（表39）。職場で本音が言える割合が高かった領域においても高い結果となったが、福祉・介護は前回より「かなり・だいたい話し合う」と「なんでも言える」割合が前回より上がったにもかかわらず、「自分の意見が反映された事業所運営になっている」と思う割合は減っている。また、全体的では「思う」・「思わない」・「分からない」が大体**3:3:3**になっている（表39）。

## 5. 事業計画作りへの参加と内容理解度

事業計画づくりで「参加・少し参加」の割合が高かった領域は、福祉・介護の**39.3%**（前回比**10.2**ポイント↓）、清掃・ビルメンの**32.4%**（同**2.5**ポイント↑）であった。福祉・介護は他の職種よりも参加率が高いものの、前回より**10.2**ポイントも減少している点が気になる。次いで公園・緑化の**28.4%**（前回比**7.1**ポイント↑）、給食の**22.7%**（前回比なし）、物流の**20.3%**（同**6.1**ポイント↑）、食品加工の**12.8%**（前回比なし）、販売・売店の**15.3%**（前回比なし）となっており、参加する割合は増えていることがわかる。販売・売店は話し合いが行われている割合が他よりも高かったが（表38）、事業計画づくりにおいては**84.7%**が不参加と答えた（表40-1）。

男女別では、男性の**34.5%**が「参加・少し参加」と答え（前回比**8.3**ポイント↑）、**20代・30代・40代**で4割を超えた。女性は**29.3%**が「参加・少し参加」と答えた（同**5.6**ポイント↑）。中でも**20代**の**45.3%**が一番高く、**30代**が**23.7%**、**40代**が**31.8%**、**50代**が**30.3%**、**60代**が**24.4%**、**70代**が**27%**であった。「少し参加」を含めても約**3割**の参加なので、実質的な参加はまだまだと言えらるだろう。

事業計画を理解している割合が低かったのは、食品加工（**19.2%**）、販売・売店（**23.1%**）、給食（**31.9%**）であった（表39）。ただ全体では「よく理解している・ある程度理解している」が**49.2%**（前回比**6.0%**↑）と半数近くになる（表40-2）。事業計画づくりにはなんらかの形で約**3割**しか参加していないが、半数近くが理解していることになる。「事業計画をほとんど理解していない（**34.9%**）」「読んでいない（**4.3%**）」「配られていない（**4.8%**）」は前回より微減した。

## Ⅷ. 組合員の自己研鑽、学習・教育研修について

### 1. 習い事

「過去5年のうちで、習い事や教室、学校に通ったり、通信教育などを受けたことがあるか」という質問に対し、「はい」と答えたのが**33.3%**の**579人**であった。そのうち**468人**（**26.7%**）の人がその内容を答えている。**10代・20代前半**の**20名**の回答のうち、大学や専門学校での将来の為の習い事がほとんどで、**4万円以上**のものが多かった。**20代後半**以降でも実用的なものが多く、全体ではヘルパー講座を挙げたのが**178名**、パソコン関連を挙げたのが**77名**と目立った。お花や唄、スポーツなどの趣味を学ぶ人の割合は年齢が上がるにつれ増えていき、**20代**は**21.7%**、**30代**は**25.4%**、**40代**は**33.3%**、**50代**は**35.7%**、**60代**は**48.1%**で